

釋名香發名和此米香氣勝他米芬香故名筑前州種之供上膳也山公醫旨云香稻米味甘軟其氣香甜紅者謂之香紅蓮其熟最早晚者謂之香稻米云々今按蘇頌所謂香粳長白如玉者是也但不收穀故不多種也

氣味甘温無毒主治開胃益氣調中滑澀補精惜不能多種耳山公醫旨

〔東垣食物本草〕香稻米

香稻米味甘軟其氣甜香可愛有紅白二種又一種紅而長者三粒接之約長寸許比他穀收最晚開

胃益中滑澀補精惜人不能多種耳

〔毛吹草〕筑後 芳米 豐前 芳米

〔散木奔謂集〕秋いねのたふれたるをみて

おぼつかなたが袖のこにひきかさねほうしごのいねかへしそめけん

〔散木集註〕秋そでのこほうしごともに稻名也

〔松屋筆記〕七十四補のこほうしごなどいふ稻名

按に末句頼歌かへしそめけんと有は誤也顯昭注本にかぶしに作れるをよしとす顯注云そ

でのこほうしごともに稻名也かぶすとは稻の實の成て傾くをいふ也云々かぶしは古事記

上卷八千矛神の御歌に夜麻登能比登母登須々岐宇那加夫斯云々山本の一木薄神代紀下卷十

に頗傾此云歌カフシ志云々天智紀三に垂穎而熟云々徒然草百五にかぶしがたちなどはとよし

と見えて云々四季物語十一に急ばしうちかたぶきたるかぶしがたちをかしきもの成べし

云々なども見ゆ丹後守爲忠家初度百首に山田苗代を爲忠

うち山のすその、小田の苗代にいくらかまきし袖の子の種夫木集三秋秋田部に御集花山

院御製

袖ノ子稻
法師子稻